

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 4月 30日

事業所名 キッズ・レインボー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	室内と室外の場を工夫し、自由遊びのスペースの確保を図っている。	週1回ではあるが、市のセンターで思う存分身体活動をして汗を流す機会や、小学校体育館を借りて、エアロビ・インストラクターによる体操などを行っている。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	専門職配置を適切に行っています。	安定した配置を継続できるように、職員研修や新人職員募集をしていくこと。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	100%	現状で必要な最小限の安全対策をしている。	玄関のバリアフリー化が目下の急務となっている。家主の許可を得たうえで、大がかりな工事となるため、営業しながらでは時間が取れない状況にあり、苦慮している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	0%	83%	まとまった会議時間がとりにくいので、毎日の朝礼と終礼などを通じて、意見交換の機会を設けている。	月に一回程度の、まとまった会議時間がとれるよう、工夫したいと考えている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎年アンケートを実施し、保護者の意向を把握して改善できるところはしていくように工夫しています。	アンケート用紙の記入ができない保護者がおられるので、対面での聞き取りも必要と思う。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%	ホームページに掲載し、門真市手をつなぐ育成会の会報でも紹介している。	できるだけ多くの利用者からのご意見を聴取し、自己評価に反映して支援の充実を図りたいと考えている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	42%	保護者のご意見や利用者本人の希望などを真摯に受け止める努力をしている。	第三者による外部評価は、当面の大きな課題である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	0%	大阪府が実施している事業所支援を研修の機会のひとつにしています。また大阪育成会などのウェブ研修に参加しています。	職員が求めている研修ができていないのが課題である。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	83%	0%	コロナ禍で対面できない方には電話になりましたが、保護者とのモニタリングを実施して計画作成しています。	保護者の思いと本人の思いが一致しているかどうか？本人の発達段階や課題が、事業所と保護者が異なることがあり、相談の時間が必要ですが、コロナ禍のため面談がしにくいことが課題である。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	42%	58%	行動観察の力をつけ、毎日の記録を共通理解することを通じて、よりよく行動を理解することに努めている。	判定機関や病院での判定結果を、ご家庭から提供していただき活用している。

適切な支援の提供

11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	児童発達支援管理責任者を中心に、常勤職員が協議し作成している。	認定子ども園の年中組から高等部2年生の集団活動のため、プログラムを発達に応じて変化させているのが課題である。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%	新しいプログラムを組み入れると共に、固定化しないよう同じテーマであっても主催者を変えるなどして、展開上も工夫している。	自由遊び、学習、行事、調理実習的内容など、いくつかの 카테고リーに分け、それぞれの中で固定化しないよう工夫している。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	前月の10日までにプログラムを決め、保護者に配布し、細やかに担当や机の配置などを決め支援している。	外出予定は、天気によって左右されるので、雨の時のプログラムも必要となり、担当職員の負担となっている。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	個々の課題を確認し、集団活動をメインにしながら、個別の活動にも取り組んでいる。	他事業所での個別プログラムなどを考慮して、全体の集団活動は生活全般にわたるように計画している。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	92%	8%	毎日の朝礼で送迎配車担当者、支援プログラムと役割分担などを文書で示し確認している。	打合せ後の変更があった時に伝達が届かないことが無いように配慮している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼時に一日を振り返り業務日誌に反映し、改善への手がかりとしている。	終礼に出席できない職員に、振り返りシートを毎日記入してもらい支援の向上を図っている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	サービス提供記録票を個別カルテに集積し、支援の改善につなげている。	サービス提供記録票に書ききれない内容は、終了後に追記している。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	83%	0%	定期的にモニタリングを実施し、必要に応じて柔軟に対応している。	発達検査の状況や家庭環境等の変化に対応して柔軟に対応するため、関係機関との連携を深めている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	67%	8%	ガイドラインに示されている3領域を組み合わせて、支援を工夫している。	相談支援事業所からの情報を活用し、複数事業所利用者はそれぞれの事業所の役割分担にも配慮している。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	0%	最も適した職員が参画し他の事業所の担当者との情報交換で連携強化を図っている。	門真市では、サービス調整会議が殆んど開催されず、相談支援担当者からの情報提供となっており、関係機関の担当者間とのより深い連携と情報交換ができていないことが課題である
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83%	0%	学校との連絡調整と情報共有により、迅速な対応に努めている。	学校およびご家庭の協力を得て、関係機関との連絡調整を積極的に行い、もれがないように万全に対応しているが、変更が多い時期には、送迎時間の間違いがおこることが課題である。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%	該当者はありません。	該当者はありません。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	0%	双方が連絡を密にして情報共有している。	移行期の支援については関係機関との連携に配慮している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	0%	今年度末支援学校高等部卒業予定者があり、進路先への情報提供を行う予定。	情報提供のための資料整備等に努め、資料提供を求められた時には情報提供をすぐに行うようにしている。保護者にはモニタリングの様子をお伝えしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	83%	0%	センターが中心となって開催されている研修には参加している。	利用者の居住地域が門真市以外の人には制約がある。門真市以外のセンターとは連携ができていないことが課題である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	42%	33%	例年実施していた小中学校、支援学校と交流行事は、コロナ感染禍で実施できなくなった。	交流活動については、当面自粛せざるを得ない状況である。コロナが落ち着くのを待つ再開したいと考えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	83%	0%	理事長・所長が市の各種協議会等に参画し、意見反映と情報収集の機会となっている。	大阪府の手をつなぐ育成会役員として、府全体の動向や情報を得ると共に、協議会やサブ部会などにも参画している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	83%	0%	日常的に情報交換し「保護者のつどい」で保護者間の交流にも努めている。	活動場面の映像を「保護者のつどい」で話題提供し、共通理解と意見交換の場としている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	8%	電話、LINEなどを通じて、ペアレントトレーニングの観点からの支援を続けている。	コロナ感染禍であり、面談などの接触は控えている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	0%	契約の機会に詳しく説明すると共に、状況の変化に応じて説明を行っている。	コロナ禍での在宅支援などの説明を利用者全員に周知できていませんが、現行の規定の中で、改定を要する内容がないか検討している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	0%	相談経験者や療育経験者が公認心理師と協力して支援を行っている。	大阪府及び全国組織と連携した親の会などの情報を得ながら、助言や相談などの支援をさらに充実する。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	83%	0%	「保護者のつどい」や育成会行事などを通じて、保護者同士の交流を支援している。	門真市手をつなぐ育成会の先輩の親が、相談に応じて対応し支援をする方針である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	92%	0%	法令等の定めにより、苦情解決担当者等を定めて対応している。	苦情があれば迅速に対応するとともに、苦情が起こる前に対応できるよう、職員間で報告・連絡・相談体制をとっている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	92%	8%	毎月の行事予定を配布し、ホームページでいろいろな情報の提供に努めている。	利用者には、終わりの会などを利用して、可能な限り行事予定や必要な情報を提供している。

	35	個人情報に十分注意している	92%	0%	大阪府個人情報保護条例や法人の規定に則り、十分注意している。	定期的に保護条例、職員行動指針を再確認し、注意を喚起する。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	92%	0%	事業所の性格からも当然のこととして十分配慮することに努めている。	保護者からは、LINEでの連絡が多く、内容の確認のため電話をおかけして正しい情報を伝えていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	42%	33%	コロナ感染禍であり、自粛せざるをえない状況が続いている。	職員にできる限り地域住民を採用するように配慮し、可能な範囲で地域の行事に参加させてもらうようにしている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	33%	42%	コロナ感染への対応と周知が喫緊の課題となっている。	ご家庭・保護者との連携と周知に力を注いでいる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	50%	25%	営業時間帯での災害対応を第一義として、訓練等を行っている。	コロナ感染への対応など、新たな課題への対応が喫緊の課題である。飲料水、乾パンなど、最低限の備蓄は行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	58%	0%	順次研修を受講すると共に、伝達講習に努めている。	自己研修のための資料提供に努めている。職員同士が支援行動を言い合えるようにしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	0%	現在は、いかなる場合にも身体拘束はしない支援をしている。	いつも複数で支援にあたり、いかなる場合も身体拘束は行わないようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	58%	0%	検査結果をいただき職員に周知し、クッキングやおやつの際に、気をつけています。	今後もアレルギーに対する聞き取りを正しく行い、医師の指示書に従い間違いのないように努めます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	17%	事例検討会を持ち、その日のうちに学習して再発防止に努めている。	事例を積み上げ、他の事業所等での事例からも学びながら、事業所内でも情報共有に努めている。